

製品市場を追跡する

金属探傷剤

長引く不況や製造業の海外シフト等の影響から苦戦が続いてきた金属探傷剤市場だが、アベノミクスや円安進行で自動車・鉄鋼向けに復調の兆しが見え始めている。今年も、大手家電メーカーの国内生産回復が発表されたことや、東京オリンピックに向けたインフラ整備など期待材料は多い。首位マークテックをタセ、栄進化学が追いつく展開だ。

☆市場の沿革

エアゾール金属探傷剤の草分け的商品は、1957(昭和32)年のマークテック「スーパーチェック」、日本油脂(現タセト)「カラチチェック」と目される。ほとんど、太陽物産、栄進化学が登場、電子磁気工業なども姿を見せ市場が形成された。その後はマークテック、日本油脂、栄進化学の3社による寡占が進みながら市場は成長していった。市場規模を年間生産量(日本紙推定)で見ると、69年までは60〜80万缶で推移し比較的地味な展開が続いたが、70年以降は上昇気流に乗り73年には350万缶にまで達している。各種製造業における事故多発時代を

苦戦したが影響は比較的軽微で450万缶前後(国産340万缶、輸入110万缶前後)となった。12年は、東日本大震災から引き続く原子力発電の表面検査に使用可能。試験対象の材質に変わりがなく殆ど全ての材料・製品に適用可能。自動車や鉄鋼生産の増大、各産業の整備投資拡大が大きく寄与した。08年の米国リーマンショックにより世界的な景気後退が起り、日本経済も例外なく厳しい状況下におかれた。自動車・鉄鋼産業の生産は急激に落ち込んだ。その後、09年1月〜3月期

況による自動車の国内生産が減少、製造拠点の海外移転が続いたことや、4月の消費増税前の駆け込み需要などで輸出向け含む自動車製造が増加、4月以降の落ち込みも軽微に抑えている模様だ。また大手家電メーカーは製造拠点の国内回帰を発表。原子力発電所の再稼働も噂されるなど、今後の金属探傷剤の増産に期待が高まっている。

▼IHI検査計測(IK Sチェック) 420万缶、AWソル(栄進化学)レッドマーク(ネオクロール)レッドマークスベシヤル(ネオクロール)各420万缶、日本瓦斯、AWソル、輸入品グナトロン)各420万缶、MHインテリジョンテクノロジス(タイヤシン)450万缶、AWソル(スカタイン)PUスプレッド(栄進化学)420万缶、自家充填(鈴木油脂工業)スプレッド(栄進化学)420万缶、朝日エアー(ダイソー)ニチモリ事業部(キズチェック)480万缶、東邦金属(タイホー)コーザイ(クロロチェック)420万缶、ダイソー、(ピンカラー)、輸入品太陽物産(レッドチェック)420万缶、日本瓦斯、(マクナゾル)420万缶、東洋エアー(セト)カフチチェック(ケイコーチェック)各420万缶、AWソル電子磁気工業(フアール)単光磁粉F770000型(ライオン)各420万缶、AWソル(αタンショウスプレー)420万缶、AWソル(日本ウェルディング・ロッド)ウェル・チェック)600万缶、AWソル、輸入品マークテック(スーパーチェック)450万缶、600万缶、コチェック)450万缶、600万缶、(スーパークロール)450万缶、(スーパーマクナゾル)10万缶、450万缶、AWソル、輸入品。

マークテック追うタセ、栄進化学 自動車向け復調気運

続く円安 製造業の国内回帰に期待

は450万缶にまで達した。しかし92年以降はポストバブル不況、一部銘柄の完成品輸入が重なったことにより国内生産量は低迷、輸入品は450万缶にまで達した。その後一進一退で推移。近年の国内生産量をまとめる

の後も一進一退で推移。近年の国内生産量をまとめる。05年306万缶、06年271万缶、07年276万缶、08年357万缶となっている(この間、輸入量は120〜140万缶)。09年の生産量は、前年のリーマンショックに端を発した世界同時不況により製造業が不振、その影響もあり、国産230万缶、輸入120万缶の合計350万缶前後と大きく後退した。10年は巻き返し、460万缶前後(国産361万缶、輸入100万缶)に。このまま

を底に自動車・鉄鋼産業は徐々に回復。低下していた金属探傷剤の生産量も回復を見せた。しかし、11年3月の東日本大震災の発生にともなう、航空機向けに大型案件があったことからその関連製品が牽引している。そのような中、昨年の当社エアーゾール金属探傷剤の販売実績は、数量ベースで対前年比約15%増を記録している。自動車製造は輸出向けを含め国内生産が回復してき

「昨年の当社実績は、対前年比微増を確保。アベノミクスや円安為替の影響で、自動車や建機など一部の業界は良くなっているが、原材料費の上昇などが、国内全体はまだ元気がない。厳しい状況が続いているが、今後の活性化に期待している。また、環境対応品へのニーズは高まっており、中身の改良を含めお客様へのフォローを適切に行っている(理事・化学品開発部長・津村氏)。



☆市場の課題
検査する対象物を壊さず、損傷の有無を調べる非破壊検査、非破壊検査関連製品の一翼を担うエアゾール金属探傷剤は、大きく浸透している。92年以降は、長期不

☆各社の現況
マークテックは、染色浸透探傷剤「スーパーチェック」シリーズを主力に、人や環境への安全性を追求し、天然原料・化粧品原料を主成分として使用した「エコチェック」や、蛍光浸透探傷剤「スーパーグロウ」、単光磁粉探傷剤「スーパー

「昨年の当社実績は、対前年比微増を確保。アベノミクスや円安為替の影響で、自動車や建機など一部の業界は良くなっているが、原材料費の上昇などが、国内全体はまだ元気がない。厳しい状況が続いているが、今後の活性化に期待している。また、環境対応品へのニーズは高まっており、中身の改良を含めお客様へのフォローを適切に行っている(理事・化学品開発部長・津村氏)。

メーカと市販製品名
※各銘柄にそれぞれ洗浄液、現像液、浸透液がある。それらがさらに細分化しており価格は一定ではないが、平均するとエーセット(浸透液1缶、現像液2缶、洗浄液3缶)で7000〜9000円、低ハロゲン・低硫黄製品や不燃性製品はその約3倍から5倍の価格となっている。